

麻薬事故

1 麻薬事故とは

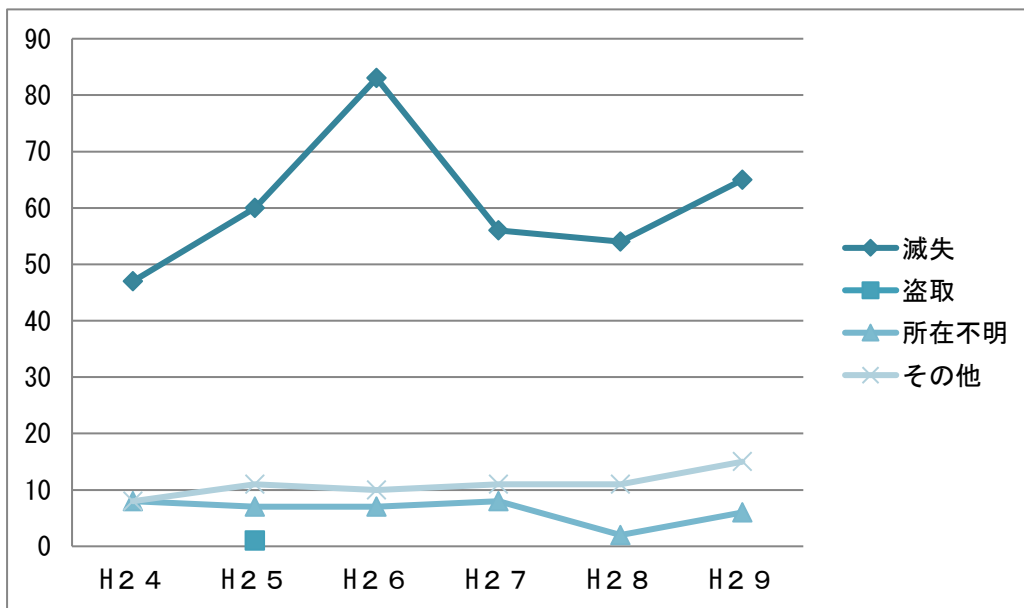
麻薬が適法な使用，廃棄等を原因としないで，有るべきところからなくなることです。

【種類】

滅失	麻薬が物理的存在を失うこと。 〈原因〉「破損」「蒸発」「流失」「焼失」
盗取	麻薬が盗難された場合
所在不明	紛失，亡失等麻薬の所在を見失う場合
その他の事故	滅失，盗取，所在不明以外のもので，強奪された場合，脅取された場合，詐欺にあった場合等

2 麻薬事故集計

(1) 事故件数の推移



麻薬事故のうち、「盗取」は平成 25 年（1 件）以降に発生していませんが，それ以外の事故は平成 25 年以降も毎年発生し，特に「滅失」は他の事故と比べて非常に多く発生しています。

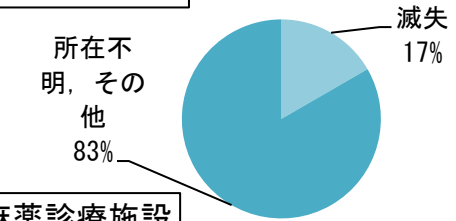
「滅失」の多くは，「不注意によりアンプルを落として割ってしまった」等の単純な人為的ミスが要因となっています。ミスを防止する若しくはミスをしても事故にならない体制をつくるのが大切です。

(2) 業務所別件数

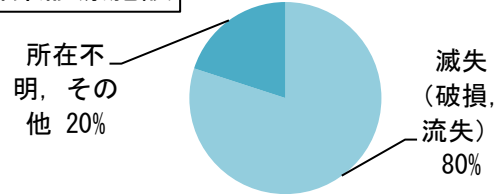
(H29. 1. 1~12. 31)

業務所	業務所別件数	
	滅失 (破損, 流失)	所在不明, その他
家庭麻薬製造業者	0	0
麻薬卸売業者	0	0
麻薬小売業者	1	5
麻薬研究施設	0	0
麻薬診療施設	64	16
合計	65	21

麻薬小売業者



麻薬診療施設



麻薬事故は、約93% (80件) が「麻薬診療施設 (病院, 診療所等)」で発生し、残りの約7% (6件) が「麻薬小売業者 (薬局)」で発生しています。

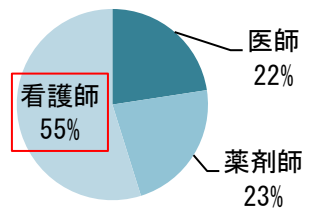
麻薬診療施設では、落として割った等の「単純な事故」が80% (64件) を占め、麻薬小売業者では、所在不明, 誤調剤, 誤廃棄等の「重大な事故」が約83% (5件) を占めています。

(3) 当事者別件数

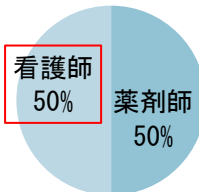
(広島市内 H29. 1. 1~12. 31)

職種	事故の種類			
	滅失	盗取	所在不明	その他
医師	7	0	0	0
歯科医師	0	0	0	0
獣医師	0	0	0	1
薬剤師	7	0	3	3
看護師	17	0	1	5
合計	31	0	4	9

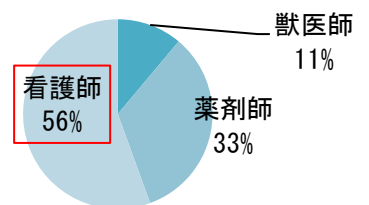
滅失



所在不明



その他



事故の当事者は、看護師が全体の約52% (23/44件) とほぼ半数を占め、次に薬剤師が約30% (13/44件) を占めています。いずれも、注射剤等の薬剤に接する機会が多い職種です。

3 対策

事件事例集を参考に、「所属の業務所において、どのような事故が起こる可能性があり、どのように防ぐか」を検討してください。検討に当たっては、「麻薬診療施設」では多発する単純な人為的ミスによる事故をどう防ぐか、「麻薬小売業者」では所在不明, 誤調剤, 誤廃棄等の発生をどう防ぐかに着目し、薬剤に接する機会の多い薬剤師, 看護師等に向けたマニュアルの作成や、業務所内での定期的な研修の開催等による麻薬の取扱いに関する注意喚起などの対策を考えていく必要があります。